

～蕪村の句

### 学問は尻からぬけるほたる哉

学問をしても身につかず、尻から抜けていくと自らを風刺している。  
蛍の光を集めて学んだという晋の時代の故事と重ね合わせてる。

### 遅き日のつもりで遠きむかしかな

つもる話と暮れの遅い日をかけている。  
日暮れの遅い春の日、話は昔のことにまで及んで・・・。

### みじか夜や毛むしの上に露の玉

画家である蕪村はわれら凡人とは異なり、  
露をまとった毛虫をこの上なく美しいものとしている。そこに滑稽がある。